

## 海外の好金利を活用して長生きリスクに備える

5月5日の「こどもの日」にちなんで、総務省から「我が国のこどもの数」というトピックスが発表されています。日本の15歳未満の割合は、昭和50年から44年連続で低下し続け、現在は総人口に対して12.3%となっています。対して65歳以上の割合は28.0%と、日本の社会保障制度への不安は増すばかりです。平均寿命も年々伸びつつある中で、長生きリスクに自助努力でどう対応するのか。リスクを分散しながら、毎月こつこつ積立投資をするのが王道ですが、すでにお持ちの資金を預貯金で寝かせておくのはもったいない、とお考えの方もいらっしゃるでしょう。長生きリスクに備えて、お持ちの資金を運用する方法について考えてみます。



### ■海外の好金利と為替リスク

投資金額に対するリターンとリスクは一体です。長生きリスクに備えるためには、すぐに使う予定のないお金でも大幅な損失は避けたいものです。リスクをなるべく抑えながら、預貯金以上のリターンを得るために、外貨建ての債券で運用する方法があります。右図のように、日本の10年国債が0.1%にも満たないのに対し、米国債であれば3%近い好利回りとなっています。しかも、米ドルは取引No.1のシェアを誇る世界の基軸通貨であり、外貨を持てば資産の通貨分散にもつながります。

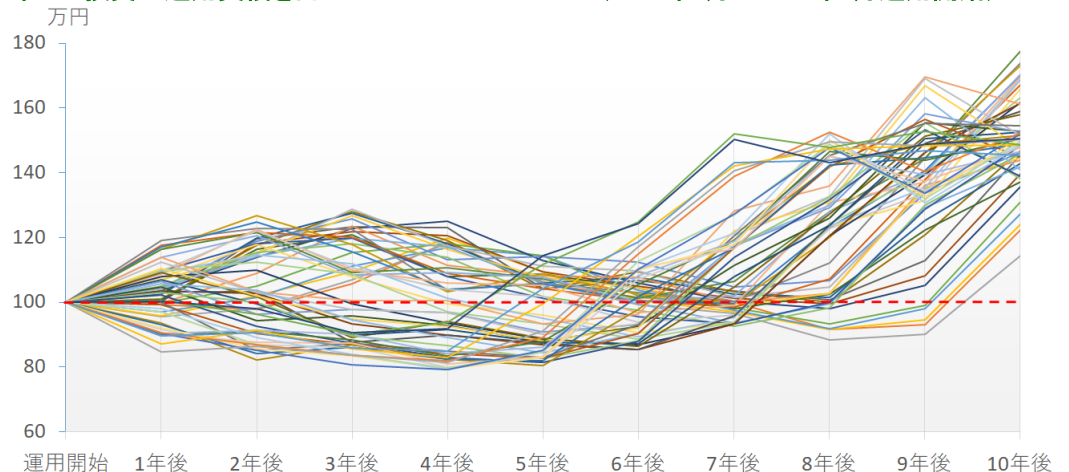
しかし、米ドル建て3%近い利回りで運用できたとしても、日本円と米ドルを交換する際の為替レートの影響で元本割れする可能性があります。これが為替リスクです。一般的に米ドルを買う際には円高、米ドルから円に交換する際は円安であれば良いと言われますが、為替の相場を予想するのは難しいものです。どのようにすれば為替リスクをコントロールできるのでしょうか。

10年国債のように利回りが確定しているものであれば、償還時の受取額も外国通貨で確定します。すると損益分岐レートを計算することが可能です。分岐レートよりも円安のタイミングで円転すれば元本割れすることはありません。

### ■好金利による効果と為替の変動を併せて考える

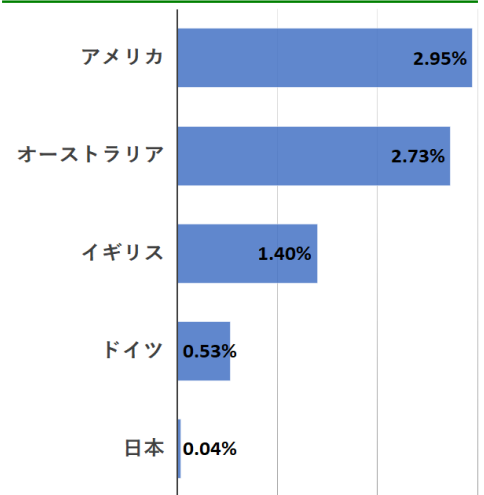
外貨建て投資は金利と為替を併せて考えることが必要です。右のグラフは2003年5月～2008年4月の60ヵ月間において毎月100万円分の米ドルを購入し、10年米国債の利回りでそれぞれ複利運用したと仮定した場合の実績を円ベースで示したものです。利率の違いや期間中の為替の変動によって、途中元本割れをおこす時期はあるものの、いつ運用を開始しても10年間運用を続けると円建てで元本を下回らなかったというシミュレーション結果となっています。このデータだけで、10年運用すれば絶対的为替差損はない、とは言い切れません。しかし、複利の効果が次第に為替リスクを抑えることがわかります。

#### 米ドル投資の運用実績を円ベースでシミュレーション(2003年5月～2008年4月運用開始)



出所：FRBおよび日本銀行のデータより弊社作成 ※通貨交換にかかる手数料・受取時の課税などは考慮していません。※将来の運用の効果を保証するものではありません。

#### 各国10年物国債利回りの比較



出所：Bloomberg (2018年5月8日現在)

### ■外貨建保険商品のメリット

ご自分で米国債券を買うのも良いですが、保険会社各社から発売されている外貨建保険を利用する方法もあります。長生きリスクに備えて運用しつつも、万が一のときには保険の非課税枠を利用し家族へ遺すことができるからです。利回りが良い、為替手数料が安い、高い死亡保障がある、など特長は各商品さまざまですが、為替リスクをコントロールするためにも運用後に円に交換するタイミングをはかれる商品がおすすです。

2018年5月10日現在の法令に基づき制作しています。今後、税制改正等が行われた場合には、その限りではありません。また、本資料に記載された情報に関しては信頼ある情報源から入手したものではありませんが、その正確性は弊社で保証するものではありません。

株式会社  
 みどり財産コンサルティング  
 760-0073 高松市栗林町1丁目18-30  
 TEL 087-834-0122  
<http://www.midori-zc.co.jp/>